

<b>令和7年度第4回「横浜市地域公共交通会議」</b>	
日 時	令和8年3月25日(水) 15時15分から17時00分まで
場 所	横浜市市庁舎 18階なみき18・19会議室
開催形態	公開(傍聴:4名)
議 題	<p>議題1_青葉区東部地区(新石川地区・美しが丘地区・あざみ野地区)における新たな公共交通サービス実証実験(あおばGO!)の運行車両台数の変更について</p> <p>議題2_鶴見区馬場・上の宮・獅子ヶ谷地区「のーとTSURUMI」実証運行における運行計画の変更について</p> <p>議題3_戸塚区戸塚町(南側)地区におけるワゴン型車両による実証運行について</p> <p>報告1_西区東久保・藤棚地区における地域貢献送迎バス(許可又は登録を要しない運送)について</p> <p>報告2_栄区湘南桂台地区における地域貢献送迎バス(許可又は登録を要しない運送)について</p>
議 事	<p>(※本議事概要内では敬称略)</p> <p><b>【議題1】青葉区東部地区(新石川地区・美しが丘地区・あざみ野地区)における新たな公共交通サービス実証実験(あおばGO!)の運行車両台数の変更について</b></p> <p>■神奈川県タクシー協会横浜支部 副支部長 ご意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状の収支率があまり良くないが、運行車両を1台減らすことによってどの程度収支率の改善が見込まれるのか。</li> </ul> <p>◇事業者(NTTドコモビジネス株式会社) 回答</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状の収支率が約7%であり、運行車両を1台減らすことで10%半ば程度まで改善されると見込んでいるが、市の補助制度による支援を継続して受けるためにはさらに高い数値を目標にする必要があるため、利用者数増加に向けたアプローチを継続してさらなる改善を図りたい。</li> </ul> <p>■公募市民 ご意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの実証運行で運賃が上がってきているが、過年度の実績を教えてください。</li> </ul> <p>◇事業者(NTTドコモビジネス株式会社) 回答</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度は6か月の運行期間で運賃収入が約140万円、今回の実証運行では2月末時点(4か月間)で100万円を超えてきているところで、過年度よりは良い状況。ただ、利用者数・利用回数は横ばいであり、目標はより高く設定しているため引き続き収支率改善の取組を進めていく。</li> </ul> <p>■神奈川県タクシー協会横浜支部 副支部長 ご意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期券の利用率はどの程度か。</li> </ul> <p>◇事業者(NTTドコモビジネス株式会社) 回答</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現時点で1枚のみの販売実績。</li> </ul> <p>■東京大学大学院 特任教授 ご意見</p>

・これまで利用者の希望どおりの予約ができなかった事例はあるか。

◇事業者（NTTドコモビジネス株式会社） 回答

・すでに予約が埋まっており予約ができなかったという事例は一定数ある。

■東京大学大学院 特任教授 ご意見

・他都市では運行車両台数を減らした結果、収支率が著しく改善した一方で予約できないケースが大幅に増えた事例がある。この取組で運行車両台数を減らすことは、ビジネスとしては理解できるが、この地域に対して何をしようとしているのかが不明確。また、予約できないケースが増えることが想定される一方、住民への周知を進めるというのは矛盾しているように思えるがどうか。

◇事業者（NTTドコモビジネス株式会社） 回答

・ご指摘の点は課題であると認識している。現状は、地区によっては1回も乗車がない日もあり、まだまだ底上げを図らなければいけない段階であると考えている。また、利用者からは、あおばGO!によって移動手段が確保されることで、自分が高齢者になった場合にも安心感があるという声もいただいているため、引き続き取組の周知を進めていきたい。

■東京大学大学院 特任教授 ご意見

・予約できないケースを少なくするよう様々な工夫をしてほしい。

■公募市民 ご意見

・この地区はポテンシャルが大きいと思う一方、これまで実証運行を進めてきてなかなか収支率が改善されていない。今回は運行車両台数を減らすのが、今後につながる次の改善策を考えているのであれば教えてほしい。

◇事業者（NTTドコモビジネス株式会社） 回答

・これをすれば確実に利用者が増えるという改善策は現時点でないが、地域の方へ利用方法を説明したことで、初めて利用してみようと思えたという声を複数いただいております。このような取組は地道に続けていきたい。また、定期的に地域の方との会合を行っており、工夫できる取組がないか検討していきたい。

■神奈川県タクシー協会横浜支部 副支部長 ご意見

・運行時間（9時～19時）について、タクシーが不足しているなど需要の大きい時間帯は他にあると思うが、この時間帯にしているのはなぜか。

◇事業者（NTTドコモビジネス株式会社） 回答

・当該地域では、既存のバス・タクシーが運行している中で、新たに「あおばGO!」を導入するにあたり、それぞれが共生できるよう運行時間帯の設定について調整を行ってきた。その中には、バス・タクシーの需要をあおばGO!に持ってくるのではなく、交通の便が悪い地域を補完する役割としてあおばGO!を導入するという考え方を軸にしてきた。

■公募市民 ご意見

・これまで運賃を段階的に上げてきたが、需要を増やすという意味では将来的に運賃を下げる考えはあるか。

◇事業者（NTTドコモビジネス株式会社） 回答

- ・その点も含めて今後検討していきたい。

**【議題2】鶴見区馬場・上の宮・獅子ヶ谷地区「のーと TSURUMI」実証運行における運行計画の変更について**

■公募市民 ご意見

- ・運行区域拡大によって利用者数は増えると思われるがその点の見立てを教えてください。また、運行区域拡大によって配車時間が増える分利用者の待ち時間も増えると思うがどうか。

◇事業者（川崎鶴見臨港バス株式会社） 回答

- ・利用者数は現状で1日20人程度で、エリア拡大によって25人程度を目標としている。待ち時間については、エリア内の営業所から予約に応じて回送することで大きな影響はないと考えている。

■神奈川県タクシー協会横浜支部 事務局長 ご意見

- ・住民の要望でエリア拡大し1日25人の利用者数を指すとのことだが、その目標で市の補助制度の目標収支率は達成できるのか。また、残りの交通空白地についても住民の要望があればエリア拡大することはあるのか。

◇事業者（川崎鶴見臨港バス株式会社） 回答

- ・目標収支率は達成できると考えている。さらなるエリア拡大については、可能性はあると考えているが、今回のエリア拡大による実績を見て判断していきたい。

■公募市民 ご意見

- ・予約方法でアプリ・LINEの比率はどの程度か。

◇事業者（川崎鶴見臨港バス株式会社） 回答

- ・2月末時点で全347ユーザのうちLINEが58%、アプリが30%、電話が10%程度となっている。

■公募市民 ご意見

- ・アプリ・LINEで約9割となるが、この数値はどのように捉えているか。利用者に高齢者がいることを考えると利用比率は高いように思える。

◇事業者（川崎鶴見臨港バス株式会社） 回答

- ・利用者説明会では、予約の手間などを考慮しLINEを中心に予約方法の説明をしてきたため、この数値は妥当だと考えている。また、利用者の年齢構成は30代～50代で約半数を占めており、60代以上は各10%程度となっている。高齢者の利用があまり多くないため、引き続き利用者説明会などを行い高齢者の利用を増やしていきたい。

**【議題3】戸塚区戸塚町（南側）地区におけるワゴン型車両による実証運行について**

■公募市民 ご意見

- ・移動動向アンケートでは外出手段も調査しているのか。また、結果として病院の利用人数がそれほど多くないと思うがその点の評価はいかがか。

◇事務局 回答

- ・外出手段も調査している。病院の利用人数は一定数あるが、利用頻度が高くないため1日当たりの利用人数は少ない結果となっている。

■公募市民 ご意見

- ・移動動向アンケートでは、外出の目的についても調査しているのか。通勤・通学者にとって30分は長いように思う。

◇事務局 回答

- ・目的についても調査している。当該交通の主な利用者と想定される高齢者の方々の外出目的では「買い物」が一番多かったため、平日昼間に駅や商業施設を循環する運行とした。

■公募市民 ご意見

- ・この地域の方の駅までの主な通勤手段は何か。

◇事務局 回答

- ・バスまたは徒歩が多い。

■東京大学大学院 特任教授 ご意見

- ・対象地区はどのように設定したのか。対象地区外に交通空白地があるのが気になる。

◇事務局 回答

- ・町内会単位で、交通空白地の需要も踏まえて設定している。

■東京大学大学院 特任教授 ご意見

- ・設定の考え方が分かるよう資料に補記してほしい。

■一般社団法人神奈川県バス協会 専務理事 ご意見

- ・戸塚駅の停留所は具体的にどのあたりか。7年度プッシュ地区で戸塚町（北側）があると思うが、そちらも戸塚駅に向かう場合は今回と同じ停留所となるのか。

◇事務局 回答

- ・今回は利用者の動線などを考慮して西口駅前広場内のタクシー乗降所内に設置する。戸塚町（北側）は現時点で未定。

■一般社団法人神奈川県バス協会 専務理事 ご意見

- ・駅付近はバスやタクシーの運行が多いが、安全面は問題ないか。

◇事務局 回答

- ・安全面も含め地元のタクシー事業者や道路管理者、警察とも協議して設定した。またタクシー事業者からは、今後変更がある場合は改めて協議してほしいとの意見をいただいている。

■神奈川県タクシー協会横浜支部 事務局長 ご意見

- ・この取組は市の補助制度を活用するのか。また制度上、運行経費の上限を設定していたと思うが、その点に変更はあるか。

◇事務局 回答

- ・この取組は補助制度を活用する。運行経費は横浜市内における一般乗用旅客自動車運送事業の時間制運賃の範囲内を上限としており、その点に変更はない。資料は分かりやす

く補記する。

**【報告1】西区東久保・藤棚地区における地域貢献送迎バス（許可又は登録を要しない運送）について**

**■公募市民 ご意見**

- ・これまでは西区社会福祉協議会の助成金を活用してこの団体（運行者）が運営してきたということか。また添乗員ボランティアは謝礼など出ているのか。

**◇事務局 回答**

- ・これまでの運営についてはそのとおり。添乗員ボランティアは、これまでは無償で担っていたが、4月からは市の補助制度を活用して謝礼を支払う。

**■公募市民 ご意見**

- ・おでかけ3のこれまでの運行実績を教えてください。

**◇事務局 回答**

- ・月に約200人、1便5～6人程度利用しており、午前中の利用が多い。また悪天候だと利用者が減るが、平均して1日20人程度利用している。

**■公募市民 ご意見**

- ・これまでも高齢者の外出機会の増加に効果があったということか。

**◇事務局 回答**

- ・そのとおりと考えている。

**【報告2】栄区湘南桂台地区における地域貢献送迎バス（許可又は登録を要しない運送）について**

**■一般社団法人神奈川県バス協会 専務理事 ご意見**

- ・運行ルートは運行開始当初からこのルートか。今回、市の補助制度を活用するため運行ルートを拡大することではないという理解で良いか。

**◇事務局 回答**

- ・当初は北コースの西側は運行ルートに入っていなかったが、地域から要望があり追加して現在のルートとなった。市の補助制度を活用するため運行ルートを拡大することではない。

**■公募市民 ご意見**

- ・利用者負担の考え方を教えてください。

**◇事務局 回答**

- ・今回の取組は、許可または登録を要しない運送に該当するため、運賃を徴収することはできない。一方で、地区の状況に応じて燃料費等の実費相当分を徴収することは可能であり、実際に実費相当分を徴収している地区もある。しかし、今回の取組においては、運行者等と検討した結果、実費相当分についても徴収しないこととする。なお、各地区における費用徴収の有無については、今後、各地区ごとに判断していくこととなる。

**■公募市民 ご意見**

- ・行政の補助制度であるため、いずれ補助がなくなる可能性も考えるならば、持続可能な仕組みとするべき。その意味で利用者負担をどう整理するかがこれからのポイントだと思う。

◇事務局 回答

- ・昨年度までの「地域交通サポート事業」ではいわゆる白ナンバーへの補助があまりなかったが、今年度から「みんなのおでかけ交通事業」が始まり、燃料費等も補助ができる仕組みとなった。すでに地域の自主運行で取り組んでいる地区では実費相当分の範囲内で利用者から徴収するかを地区ごとに判断いただいている。今後、本事業を活用して白ナンバーとして運行する地区については、補助金を活用して利用者負担を抑えることも考えられる。今回の地区は継続して運行している経緯を踏まえ、これまでの利用者負担の考え方を変えずに引き続き運行していく。

■公募市民 ご意見

- ・行政の制度を活用する場合は受益者負担の概念が基礎にあるべき。地区によって利用者負担の程度に差があると制度そのものに齟齬が生じてしまうため、制度としての利用者負担の考え方を整理するべき。

■一般社団法人神奈川県バス協会 専務理事 ご意見

- ・元々がボランティアバスのため、利用者負担も地域で考えることだと思う。これまで地域で自主運行してきたものを継続するために今後は市の補助制度を活用していくということ。行政による運行ではないというのが理解の仕方ではないか。

■東京大学大学院 特任教授 ご意見

- ・地区によってルールや考え方が変わるのはどうかという議論がある一方、これまでの経緯もあるのでそれを壊すのも良くない。市として時間をかけて基本的な考え方を整理して各地区対応していき、その結果をこの場でも共有してほしい。
- ・本事業の予算総額と各地区の取組ごとの執行額の見込みについてもご説明いただけるとありがたい。